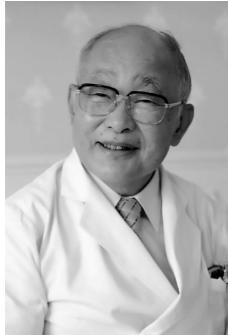


医療従事者・
医療介護部門
受賞者
蓮田 太二



■こうのとりのゆりかご外観

蓮田氏は一面的な批判を気にせず複雑な問題を多面的に捉え、最後の手段として「妊娠相談」と「ゆりかご」を取り入れた。母子の幸せのために何ができるのかを考え続けた蓮田氏の取組みは日本全体に「石を投じ、多くの母子の命を救ってきた。しかし、アジアなどその活動が広がるさなか、経済的負担や常駐医師確保の課題が国内普及を妨げているのも事実だ。蓮田氏の医療を超えた活動に対し、より多くの理解と賛同が得られることで社会には必要不可欠である。



はすだ たいじ
蓮田 太二
Taiji Hasuda

・ 医療法人聖粒会 慈恵病院
理事長・院長
a Director and Chairman of the Board
IIEI Hospital

熊本大学医学部卒業。医学博士。熊本大学産婦人科教室の研究員を経て、1969年より慈恵病院に勤務。2006年12月、新生児を匿名で受け入れる窓口「こうのとりのゆりかご（俗称：赤ちゃんポスト）」の設置を熊本市に申請し、2007年4月に許可を取得、同年5月より院内で運用を開始した。日本初の試みとして全国の注目を集め。他にも慈恵病院を拠点に、小・中・高校生を対象とした性教育の出張講義「いのちの講演会」や、生命尊重教育を目的としたアニメーション映画製作の資金集め、母子訪問・育児サークル運営による子育て支援など、さまざまな活動を続けている。

推薦

宮崎 康二
医療法人聖粒会 慈恵病院
顧問(産婦人科) /
内閣府日本学術会議(第二部)

神尾 陽子
国立精神・神経医療
研究センター精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部長

小野 友達
熊本機能病院

豊田 長康
鈴鹿医療科学大学 学長

加藤 聖子
九州大学大学院医学研究院
副研究員長、
生殖病態生理学分野教授

宮崎 恒二
東京外国語大学 名誉教授

生まれてきた命を守る

幸せを願う「こうのとりのゆりかご」から始まる支援



■平成29年5月特別養子縁組促進シンポジウム

産婦人科医として50年以上に亘り母子をみつめ、その命に関わってきた蓮田太一氏。1962年に熊本大学を卒業、同大学産婦人科で研修を積み、1969年より慈恵病院に勤務。1978年に理事長に就任し、1982年のマザー・テレサ来日を機につくられた民間団体「生命尊重センター」の「妊婦と胎児の命の尊厳を守る」運動に感銘を受け、2002年より慈恵病院で「SOS赤ちゃんとお母さんの妊娠相談」を開設した。公的機関では困難な夜間や休日を含めた24時間365日体制で無料電話・メール相談を受け、未婚や望まぬ妊娠、貧困などの相談は年間6,500件を超えると共に、特別養子縁組も約300組にのぼった。

医療従事者・医療介護部門 受賞者